

第7回 介護・医療連携推進会議 議事録

ステップこはま24hケアステーション

書記：計画作成責任者

開催日時：平成29年6月22日（木）14時～15時半

開催場所：介護老人保健施設ステップハウス宝塚 会議室

出席者：宝塚市医師会様・民生児童委員様・宝塚市介護保険課様・地域包括支援センター様  
連携訪問看護ステーション管理者様

（事業所出席者）訪問サービス課副課長、管理者、計画作成責任者

欠席者：自治会長様、ご家族様

議題1. 事業内容。運営実績報告書を基に説明。

- ・現在利用者は16名から18名で推移している。  
4月依頼の男性のご利用者様は、癌末期の方で、検査データ上はいつ急変してもおかしくない状態の方。奥様と娘様の献身的な介護のもと、自宅で生活を送られていた。当初は医療（訪問看護）を中心に訪問していたが、日中の安否確認、水分補給、排泄介助を目的にサービスに入る。サービス開始となるも、ヘルパーが入って2日後にお亡くなりになるケースがあった。
- ・現在の受入れ状況は、定期巡回に対する問い合わせがあるも、人力的な問題から新規の受け入れが困難である。またご利用者においても、新たな定期訪問の追加も非常に厳しく、定期巡回の本来の柔軟な対応が厳しい状況である。
- ・夜間訪問においても同様で、夜間の人員を増やす等の体制の検討が必要である。定期巡回と訪問介護の兼務であるため、訪問スケジュールの調整も難しい。そのため、別利用者様がショートステイご利用による訪問のキャンセルの時に、臨時で訪問を追加するなどの調整を行っている。
- ・別事業所も同様に人材不足であると聞いているが、6月より、法人内スタッフの伝手で、人員の確保ができたと聞いている。公社で求人広告にて募集をかけるが、応募がない状況が続いている。
- ・新規の受け入れが厳しい状況にある旨は、月末の利用者人数と併せて、市へも報告している。
- ・現在の訪問件数は、定期巡回の介護は1000回/月が平均である。それに対し、訪問看護は40回/月が平均ではある。しかしこの先、気温上昇に伴い体調管理、脱水・熱中症予防の水分補給や環境整備などを目的とした訪問が増えると見込まれる。

- ・要介護4～5の方の利用が多いと思われがちであるが、要介護1～2の軽い方であっても短期間でも需要があれば勿論対応する。  
現在、事業所として苦慮しているのは、性的な言動が多くみられる利用者への対応である。こちらも毅然とした対応を取り続けていくことで、ケアを提供していく。今後も、ケアマネジャーとも相談しながら対応して行く予定。

## 議題2. 自己評価の報告

- I - 5 4/27の合同カンファレンスにおいては、今回初めてケアマネジャーにも参加頂き、架空の事例を基に約20名程で行った。  
それぞれの立場で見方も違い、多くの気づきと発見があり、有意義な時間となった。
- I - 6 課題は変わらず、継続した課題となっている。
- I - 9 バイクに係る事故が数件あった事から、誰もが安全に訪問をする為に研修を行った。
- II - 1 1 季節的な事も踏まえて、迅速に対応して行く。
- II - 1 4 1 1と同様に食事管理も踏まえた対応を行っていく。
- II - 1 8 より正確な対応する為に、ポジショニングにおいては写真を活用し、クーリングについては、図によって示し、手技の統一を図るようにしています。
- II - 2 8 兵庫県社会福祉士会の方より、ホームページを閲覧し、事業説明の依頼を受ける。6月から、三田市でも定期巡回・随時対応型訪問介護看護が開始となるにあたり、5/26(金)に三田市にて事業説明会を実施。  
また、同じソフトウェアを利用している関係で、加古川市内の事業所の視察受入をした。
- II - 2 9 宝塚市内での定期巡回・随時対応型訪問介護看護の周知を行いたいが、受け入れも難しいため、周知活動を積極的に出来ないジレンマもある。加古川では、サービス付き高齢者住宅メインの事業展開が多いようで、地域へという感じは薄く感じられているとのこと。  
宝塚としても、2事業者しかなく、これ以上の対応が厳しい状況。

## 議題3. 外部評価・質疑応答

### 医師会様より

大阪の一部法人において、利用者に自身の法人内の各事業とそれぞれ契約を結ばせ、利用者を自身の法人内で回し、利用者の囲い込みを行っているところもある。

地域包括支援センター様より

お金が無く、施設に入れない様な状況にある人が、その様な事業者のところに流れてしまう事も事実としてある。

民生児童委員様より

民生委員としては今のところその様な事は聞いていないが、高齢者や独居老人が増えて  
いる中、今後、気を付ける必要があると思われる。

地域包括支援センター様より

地域を見て行く中で、地域の困りごと等もあれば、地域包括支援センターにも声をかけて  
欲しい。

連携先訪問看護ステーション様より

現在、1名のご利用者様を連携型の事業所として、一緒にさせて頂いている。  
もう少し訪問回数の増やし保清を保ちたいが、ご本人と娘様の受け入れが難しい部分も  
あり、課題である。6月後半より、リハビリも身体の動きを見る事を目的に入るので、  
リハビリサイドからも、訪問の必要性が訴えて行ければと考えている。

管理者より

このご利用者様は、自身で出来る部分は頑張っているが、排泄面において、上手く出  
来ない部分もあり、それによるスキントラブルもある。また、昼間独居・半身麻痺もある  
ため、室内転倒の危険性がある方。実際に、リビングで座り込んでいる事もあるのだが、  
上手く通報装置を引っ張れない事もある。

連携先訪問看護ステーション様より

サービスを利用されてから、担当者会議が開かれておらず、娘さんもお忙しいと思われ  
るが、開催されるように声掛けをして行きたい。

民生児童委員様より

お年寄りの方、は緊急通報システムに限らず、電化製品のランプが点灯していると気に  
なり、抜いてしまわれる方もおられるのでは？

管理者より

当事業所では充電式を採用しており、充電を忘れてしまう事があっても、コードを抜かれ  
てしまう事は無い。ただ、地震などの災害メールを受信するため、受信を知らせる点滅ラ  
ンプが気になり、通報されたケースはある。

管理者より

ケアマネジャーが、以前に市の職員に、定期巡回の訪問プランを提示すると、内容的に定  
期巡回の入り方ではないと指摘を受けたと、聞いている。

重度の要介護者が利用できるサービスと、思われているようだ。このサービスの内容理解して欲しいと思うが、こちらの周知不足も要因と考える。

介護度が軽くても、認知面も含めて判断し、その方にとって短期・長期的でも必要であれば、利用の価値はあると思う。

医師会様より

どの様な方ですか？

管理者より

認知症のあるご夫婦で、精神的サポート・食事管理・内服管理を必要とするが、市の職員に、ケアマネジャーが週間プラン(スケジュール表)を提示したところ、身体的に麻痺などなければ、定期巡回の対象では無いと言われたと、聞いている。では、認知症の方の自宅での生活は誰が見て行くのか？

連携先訪問看護ステーション様より

健康状態や生活状況に合わせて利用ができるのであれば、ケアマネジャーさんも定期巡回への理解が低いのではないかと、もっと周知を行っていく必要があるのではないかと。

管理者より

おっしゃる通り。ただ、定期巡回は訪問予定時間に幅もあり、利用者や家族が納得出来るかも重要。また、スタッフの固定が出来ない事や、男性スタッフの受け入れが出来るともポイントとなってくる。

本人や家族が出来るとも部分は、してもらう事も非常に大切である。

必要な人に必要なケアを、柔軟な対応が魅力のサービスであるが、何度も言うが課題も多い。

民生児童委員様より

地域の人のニーズを発掘してほしい。

地域包括支援センター様より

4月、5月夜間の随時が少ないように思うが

管理者より

利用者様が安定されている為。深夜帯での主な対応内容は、排泄介助と転倒の引き上げとなっている。

23時～7時の随時訪問に関しては、常勤が交替で対応している。

民生児童委員様より

夜間の対応で、おひとりの方のお宅にはどの様にして入室されているのか？

管理者より

事務所で鍵をお預かりする事もあるが、直ぐに対応・入室できるという利点で、

キーbox を自宅に設置してもらい、対応している。

キーbox の設置に関しては、他のサービスでも利用している方が増えているようだ。

次回開催予定

平成29年9月14日（木） 14時 ～ 15時半